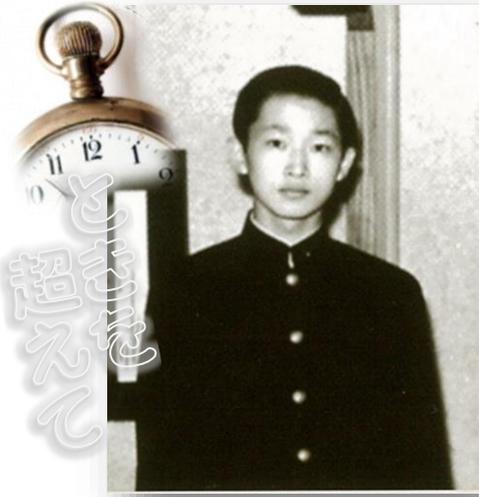


三條南ロータリークラブ週報
Sanjo Minami Rotary Club



- 出席率** 会員45名中35名
- 先々週の出席率** 100.00%
- ゲスト** ライラ研修生 三條信用金庫
鈴木桂太さん 渡邊隼人さん
- 先週のメイクアップ** 10/8 三條北RCへ 鈴木 武君 谷 晴夫君
10/10 三條東RCへ
広岡豊樹君 野島廣一郎君 谷 晴夫君
10/13 地区防減災セミナー（長岡）へ
草野恒輔君
10/15 三條北RCへ
星野健司君 野島廣一郎君
10/16 三條RCへ
西瀧精一君 渡辺俊明君



会長挨拶
三條南ロータリークラブ会長
草野恒輔

こんにちは。
本日のお客様は、三條信用金庫の鈴木桂太さん、渡邊隼人さんです。ライラ研修に出席いただきありがとうございました。お話を楽しみにしております。また、ご一緒に出席されました青少年奉仕委員会の馬場眞樹さん、高橋祐介さん大変ご苦労さまでした。

「地区防減災セミナー」に出席して参りました。地震・水害等災害に対して、ロータリーが対応する組織である地域協働ネットワークセンターの充実が重要なガバナー方針であることは皆さんご承知のことと思います。三條南クラブでも運営方針の一つとして取り上げています。昨年から正式に始まったプロジェクトです。ノウハウの検討・蓄積が始まりました。

昨年の段階では、医療支援を含めて、早い時期に動き始めるとしていましたが、医師会員は自分の医院・家族・職員の安全確認後、早期に行動を開始していますし、災害派遣医療チーム(DMAT)は直に全国展開します。ロータリーとしては第2560地区のDMATということはありませんが、一般的には疑問符が付きます。また、行政レベルでは1日足らずで、布団・食料・水等が入ってきます。数日の内に使いきれない物資が充足します。余った物資は他地域の災害が発生するまで、蓄積しておきます。これも大変な作業なのです。従って、初期の行動にロータリーが出る必要がないのです。

以上より、今回の会議で“ロータリーネットワークセンター”は情報収集を優先し、初動はしないと決めたことは評価すべきです。基本は後方支援が主で、無茶は駄目ということになりました。

文章で表すと、
被災者・・・災害ボランティアセンター・・・NPO・・・地域救護センター（行政側）並んで地域協働ネットワーク（ロータリー側）・・・各

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ロンD. バートン [アメリカ]
第2560地区ガバナー 山崎 堅 輔 [中 条]
第4分区分AG 鈴木 守 男 [三條東]
会 長 草野 恒 輔
幹 事 平松 修 之
S A A 齋 藤 嘉 一

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10
三條信用金庫 本店内
TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL http://www.sanjo-minami.jp

各分区・・・ロータリークラブの順番に並びます。
つまり、行政側の地域救護センターに寄り添うかたちになります。後方支援が中心となれば、各分区の各クラブがどれだけの物資を出せるか、どれだけの人を出せるか、または他に何が出来るか、登録しなければなりません。今まで、多くの検討がなされてきましたが、まだまだの感があります。今後、2年位の検討期間が必要と考えられています。

出席者40名程でしたが、午前はパネル方式、午後はワークショップ方式で検討を行い、意義ある会議でした。
時間・場所は、10月13日(日)10:00~15:00 長岡震災アーカイブセンターでした。

さあ、今日も2句！ サラリーマン川柳より
 空気読め それより部下の 気持ち読め
 昼食は 妻がセレブで 俺セルフ



幹事報告

平松修之 幹事

山崎堅輔ガバナーより 公式訪問 及び 記念写真送付お礼

新潟県共同募金会三条市支会より「赤い羽根共同募金街頭募金」の報告とお礼について
 10月1日実施・・・鈴木園彦当クラブ三条市支会委員出席 街頭募金(7ヶ所)合計 72,084円
 ※なお、当クラブニコニコボックスより30,000円拠出(街頭募金外)

三条ローターアクトクラブより「11月第一例会」のご案内

日時 2013年11月7日(木)19:30~
 場所 三条・燕地域リサーチコア 4F 異業種交流室
 例会内容 卓話 地区新世代奉仕・ライラ委員 木戸信輔様(加茂RC)

ニコニコボックス
 NIKO-NIKO BOX

~ 10月21日 24,000円
 今年度累計 281,661円~

草野君 本日は、ライラ研修報告です。ご出席いただきました三条信用金庫 鈴木桂太さん、渡邊隼人さん、どうもありがとうございました。

平松君 先日、新潟シティマラソンに初参加しました。完走できて感激！しています。本日はライラ研修の報告です。鈴木さん、渡邊さんよろしくお願います。

馬場(眞)君 鈴木さん、渡邊さん、ライラ研修お疲れ様でした。報告よろしくお願います。

野中君 ライラの発表、ご苦労様です。そして、原稿のご提出ありがとうございました。

永桶君 ライラ研修ご苦労様でした。

鈴木(武)君 久しぶりの例会出席です。昨日は、母校の学園祭に久しぶりに友人に会いに行ってきました。

丸山君 先週の連休に久しぶりに二人の息子の家族全員集合して楽しく過ごしました。総勢9名で、私の70歳を祝ってくれました。

吉井君 めっきり秋めいてきました。一昨日、商工会議所の“秘境 八十里越え”に参加してきました。事業の大変さがよく理解できました。

荒澤君、石山君、加藤君、坂本君、佐々木君、滝口君、田代君、田中君、銅冶君、名古屋君、長谷君、星野君、渡邊(久)君、渡邊(光)君、BOXに協力いたします。

船久保君 BOXにご協力ありがとうございました。



第13回RYLA研修 ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDS

研修期日 10月5日(土)・6日(日)
 研修会場 柏崎エネルギーホール、柏崎市産業文化会館
 研修テーマ 「地域の資源・資産を知る 生かす 創る」

ロータリー
青少年
指導者養成
プログラム



ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA) は、年齢 14~30 歳の若者を対象に、スキルと人格を養いながら、奉仕、高い道徳的基準、平和といったロータリーの価値観を学ぶ機会を提供することを目的としています。

RYLAを通じて、地域社会の若者たちがリーダーや良き市民としての資質を養い、人間として成長するのを助けることができます。

1959年にオーストラリアのクイーンズランドで初めて実施されたRYLAは、ビクトリア王女の訪問を記念して地元青年たちによって行われた祭行事でした。以来、RYLAは、青少年の可能性を信じるロータリアンによって続けられ、次世代のリーダーとなる青少年が、自己を発見し、スキルを身につける機会となったのです。

1971年に国際ロータリーによって正式に採用されたこの活気あふれるプログラムは、現在、世界中のロータリークラブと地区によって実施されています。

第1日目 10月5日(土)

9:30 開講式
10:00 研修① 基調講演 講師 竹内純子氏
環境・CSRコンサルタント
11:00 オリエンテーション ~昼食
12:30 研修② 環境体験学習 夢の森公園
14:30 研修③ 原子力発電所 見学
17:30 各宿泊施設チェックイン
19:00 交流懇親会 21:00 閉会

第2日目 10月6日(日)

6:00 起床
6:15 研修④ 朝活動 ウォーキング
7:30 朝食 8:30 宿泊施設チェックアウト
9:00 研修⑤ グループディスカッション
12:00 昼食
13:00 研修⑥ グループディスカッション成果発表
15:00 研修⑥ 研修総括・まとめ
15:30 閉講式 16:00 解散

● 研修プログラム

三條信用金庫 鈴木桂太さん

「ライラ研修を終えて感じること」



三條信用金庫塚野目支店の鈴木桂太と申します。

この度は、ライラ研修に参加させていただき大変ありがとうございました。研修に参加させていただくにあたり、草野恒輔会長様をはじめとする三條南ロータリークラブの皆様には多分なるご支援をいただきましたことを研修生 2 人を代表しまして心から感謝申し上げます。特にお忙しい中、当日のご引率、ご指導をしてくださった馬場眞樹青少年奉仕委員長様、高橋祐介青少年奉仕副委員長様におかれましては、この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。

それではライラ研修の報告をさせていただきます。

私たちは、10月5日から10月6日までの1泊2日の行程で、柏崎で行われました「第13回ライラ研修」に参加させていただきました。今回の研修は

「地域の資源・資産を知る 生かす 創る」というテーマでありました。研修での2日間の流れとしましては、1日目は、先ず研修全体の講師である環境 CSR コンサルタントの竹内純子先生の講義と、柏崎夢の森での環境体験学習、柏崎刈羽原子力発電所見学をさせていただきました。2日目は、テーマに沿ったグループディスカッションとその発表でした。私からは1日目の竹内先生の講義から、原子力発電所見学までを報告させていただきます。2日目に関しては、後程渡邊より報告がありますのでよろしくお願いいたします。

先ずはじめに、竹内先生からは研修のテーマでもある地域の資源や資産についての講義を受けさせていただきました。この講義では新潟県全体の資源や資産について教わりました。私自身新潟県に住んでいるにもかかわらず、わからないことがたくさんあるということに気付かされました。新潟県の国立公園はいくつあるのか、新潟県が全国で一番人口の多い時代はあったのか、新潟県の郷土料理はどれくらいの種類があるのか、といった問いかけがありましたが、私は何一つとして自信をもって答えられるものがありませんでした。しかしながら、ひとつひとつが新潟県の資源や資産であり、これらを知り、生かし、創っていくということが地域活性化のカギになるということはこの講義では学ばせていただきました。

次に柏崎夢の森公園での環境体験学習についてです。ここでは、「持続可能な社会」の実現のために何が必要かということ、菜種からの搾油や里山ウォーキングを体験しながら考えました。はじめに研修生ひとりひとりが持続可能な社会に必要なものを一文字の漢字で表現し、一通りの体験学習が終わった後に、また改めて一文字の漢字を考えるといった内容でした。そこで私が考えた一文字は体験学習の前・後とも再生の「再」という漢字です。これは、持続可能な社会に必要なものは再利用や再使用だと考えたからです。また、体験学習である里山ウォーキングの際に、空き缶の再利用等が随所になされており、改めて「再」という文字が必要であると考えました。研修生の中では「住」という文字や、「水」「飯」「夢」といったように様々な文字を考えている人たちがいました。そういった中で、これらに正解などなく、どれもが持続可能な社会に必要なものであると私自身は感じました。

最後に柏崎刈羽原子力発電所の見学についてです。柏崎刈羽原子力発電所は世界最大の原子力発電所であり、地域にとって大きな資産です。しかしながら、現在では東日本大震災から見てきた新たな安全対策の必要性から、全機稼働停止状態にあります。今回の見学では、原子力発電の仕組みを学び、実際に原子炉建屋、タービン建屋、中央制御室を見学すると同時に安全対策についても説明を受けました。このような原発見学の中でもっとも印象に残ったのが、安全対策についての説明でした。東日本大震災からの教訓により、15メートルの防潮堤から、電源喪失時のための電源車の配備、非常用冷却水の確保等、災害時の対策が二重三重に施されているということや、原発の責任者である横村所長の二度と事故を起こさないという強い気持ちが込められたお話を聞かせていただき、安全対策に対する取り組みを実際に感じる事ができました。原子力発電所に対しては様々な意見があると思いますが、地域にとって一つの資産であること、事故が起きた際の影響、それに対する対策など、今回の見学で学んだことを踏まえて私自身も考えていきたいと思いました。

以上のような1日の研修の中で、様々なことを体験し、学ばせていただきました。さらに研修期間中は、多くの同年代異業種の方たちとの交流を図ることもできました。その中で、それぞれの人が持つ考え方に触れることができたのは、普段生活していく中ではできない貴重な経験となりました。これらの研修で学んできたことを生かし、ライラ研修の目的である、リーダーシップを発揮できる若者を意識していきたいと思っています。私にこのような意識を持つきっかけを与えてくれた今回の研修には非常に感謝しています。本当にありがとうございました。



■ 三条信用金庫 渡邊隼人さん



三条信用金大崎支店の渡邊隼人と申します。この度は、ライラ研修に参加させていただき、誠にありがとうございました。

私は、社会人一年生の職員です。毎日が勉強で、とても楽しく仕事をさせていただいております。今出来ることは、明るく元気な対応だと思っておりますので、日々元気な挨拶や電話対応を心がけております。また、一日でも早く仕事を覚え、お客様に満足していただけるよう精進しております。一年目からこのような研修に参加させていただき大変ありがとうございました。

それでは、鈴木に続きまして報告させていただきます。研修2日目は、終日グループディスカッションでした。「地域の資源・資産を知る、生かす、創る」という大テーマのもと、「どのような地域にしていきたいか」と「地域にどのような資源・資産があるか」という2つについて、グループごとに分かれてディ

スカッションを行いました。

私たちの班では、県内出身地域ごとに資源・資産を出し合い、その地域ごとにどのようにしていきたいかという風に県内を地域ごとに分けて考えました。例えば、新潟市は政令指定都市という特色を生かし、東京・大阪・名古屋につづく大都市になるように開発をしていく。村上市の場合は、村上牛というブランド、そしてあえて古い街づくりを行うことで多くの観光客が訪れている為、その資産を大切に現状維持していく。柏崎市は、原子力発電等のエネルギーが活発という地域性を活かし、原子力発電機の増設を行う。三条市は、金物産業が盛んであるため、その技術を活かし国内外のデザイナー等とコラボレーションしていく、などです。また、私の班にはブラジルからの交換留学生もいましたので、他国の意見も取り入れました。彼女の出身地は、とても小さく危険がいっぱいの町の様です。しかし、近所の人たちが良い人ばかりというコミュニティの和があるため、今後も地域住民のつながりを大切にしていきたいという意見です。以上のような意見をまとめ、私たちの班では、新潟市を都市化して、それ以外の地域は各々の資源・資産を伸ばしていくという内容で発表しました。

他の班の発表内容は、県内に多くの方が定住するように、大学を増やすべきとするものや、フェイスブックやツイッターといった電子媒体を上手く利用して県内外に地域の良さをアピールしていくもの、地域の祭や、ボランティア活動に積極的に参加して、地域の活性化を図っていくことが重要であるという意見が挙げられていました。

このディスカッションを通して感じたことは、新潟県内でも地域によっては私が見ることが非常に多いということです。まず、自分の住んでいる新潟県のこと、とりわけ県央地区のことを深く学んでいくことから始めていきたいと思いました。

今回の研修に参加して、様々な年齢、職業の方と触れ合うことができ、とても刺激的で充実した2日間となりました。また、普段考えることのない地域の資源・資産については深く考えることで、改めて新潟県について見つめなおすことができました。三条信用金庫は地域密着を掲げ、常に地域に必要とされる金融機関を目指しています。今回の研修で学んだ地域の資源・資産を知る、生かす、創るということを常に心がけ、地域を大切にしながら、今後の業務に励んでいきます。この度は、本当にありがとうございました。



バン記者が走る

クラブ会報委員 取材記録

地域の資源 資産を知る 生かす 創る

十月五日〜六日に柏崎で開催された「第13回ライラ研修会」に研修生とともに青少年奉仕委員として参加した。研修生たちは、初日の柏崎原発の見学、そして翌日のグループディスカッションでは活発に意見を交わしていた。社会人として歩き始めて、2年目、1年目の彼らにとって柏崎原発はどのような写ったのだろうか。馬場委員長も先週のスピーチの中で「様々な人の思いが何層にも絡み合った複雑な問題と言えるのではないだろうか」と述べていたが・・・。

澄んだ目で、耳でいろいろなことを吸収されたに違いない。地域を担う素晴らしいリーダーに育ってくださると確信した二日間であった。

ところで、

ライラは毎年持ち回りで、2560地区内、各地で開催されている。今回は柏崎ロータリークラブがホストクラブとして企画運営された。私は初めての参加であったが、ホストクラブのご苦労には頭の下がる思いであった。過去のライラについて尋ねてみると、新発田での開催では、会場の敬和学園大学学長の講演、大学から宿泊先の月岡温泉までのウォーキングであったり、津南での開催の折には稲刈り、はざかけ実習、その後その精米されたものが研修生に送られたり、また、昨年の糸魚川ではフォッサマグナミュージアムの見学や化石、ヒスイ拾い。随分前に高田での開催では自衛隊での訓練経験もなされたとか・・・と開催地ならではの企画がなされている。まさに今回のテーマ「地域の資源・資産を知る・生かす・創る」が毎年企画実施されているのである。

来年は、同分区の加茂クラブが担当とのこと。今回のライラにもメンバー7名が参加し、視察に余念がなかった。

毎月週報に載るカレンダーの加茂クラブのユニークな例会予告には思わず笑いがこぼれてしまうが、来年のライラ、加茂のどんな地産があらわれるのか・・・楽しみにある。(高橋 記)



交流懇親会
於：柏崎市
産業文化会館



ラビンドラン氏を会長ノミネーと宣言

10月1日、ロン・バートンRI会長は、K.R. “ラビ” ラビンドラン氏を会長ノミネーとして正式に宣言しました。対抗候補者はありませんでした。
スリランカのコロombo・ロータリークラブに所属するラビンドラン氏は、去る8月に、2015-16年度RI会長指名委員会から指名を受けていたものです。2014年6月に開かれるシドニー国際大会での選挙を経て、2015年7月1日に正式に会長に就任することとなります。



会員増強がロータリーにおける最優先課題であると考えラビンドラン氏は、「会員増強を図る上で、今後も若い世代を重視するとともに、経験豊富な退職者にも入会してもらわなくてはなりません。一つの方法で、世界中の会員問題に対処することはできないという認識に立ち、地域別の会員増強計画を立てたのは適切であると思います」と述べています。ラビンドラン氏はさらに、「アルバート・アインシュタインが『同じことを繰り返しながら、違う結果を望むことを、狂気という』と言ったように、ロータリーの従来の方法は、良い結果を生みませんでした。今回の地域別会員増強計画で、世界が22の地域に分けられ、それぞれの地域にあった計画が実行されていることをうれしく思っています」と述べました。

「ロータリーが与えてきたインパクトを人々に理解してもらえるよう、ロータリアンが、特にソーシャルメディアを通じて、一貫性のあるかたちで、ロータリー・ストーリーを伝えていかなければなりません」と、ラビンドラン氏。「私たちのアイデンティティは、シンプルで、ロータリーの中核となる価値観に基づいたものであり、しかも、ロータリアン以外にも分かりやすいものでなければならないと思います」

商学の学位を持つラビンドラン氏は、ティーバッグの製造で世界をリードする上場企業、Printcare PLCの創始者・CEO（最高経営責任者）であり、そのほかいくつかの企業や慈善信託基金の理事会メンバーを務めているほか、スリランカ最大の麻薬防止団体であるSri Lanka Anti Narcotics Associationの創立会長です。

スリランカのポリオ・プラス委員長でもあるラビンドラン氏はさらに、同国政府関係者、ユニセフ、ロータリーのメンバーから成るタスクフォースの委員長としてユニセフと協力し、同国北部を領域とする武装組織から、全国予防接種デー（NDA）中の一時停戦の約束を取り付けた実績があります。

1974年にロータリーに入会したラビンドラン氏は、これまで、国際ロータリーの理事および財務長、ロータリー財団管理委員を務めたほか、国際協議会のディスカッションリーダー、地区ガバナー、規定審議会代表議員、ゾーン研究会委員長を歴任しました。また、スリランカで津波によって破壊された25校を再建する、ロータリー地区およびクラブのプロジェクトの委員長として、15,000人の生徒たちの支援に貢献しました。ロータリー財団功労表彰状、財団特別功労賞、ポリオのない世界を目指す奉仕賞の受賞者でもあります。

バナシー夫人との間には、2人のお子さんがいらっしゃり、ご夫妻は共に、財団のメジャードナー（レベル4）です。

次週例会 11月11日 「米山月間」 2012学年度ロータリー米山記念奨学生
才布騰道日吉（ツァイブトン ドルジ）さん

次々週例会 18日 クラブ・フォーラム「地区大会報告」



ときを超えて

あの日の一枚

船久保孝志君

加茂に生まれ育ち……

多感な中学生時代



三條南ロータリークラブ週報

2013.10.21

No.2094 No.12